



床版落下

会員9社の精鋭たちが 尼崎～西宮間に集結、 不眠不休の復旧活動を行う

被災状況が伝えられるや否や、会員各社は直ちに危険箇所の排除、立ち入り禁止区域の処置を行い、JR西日本の指示・指導のもと復旧作業に取りかかりました。容赦無く群発する余震の中、2次災害、3次災害の恐怖と戦いながら落橋した床版の下でのジャッキアップ作業が続いて、文字どおり決死的な作業でした。通常の施工であれば平均5か月は要するところ、着手から最大45日、最短32日(平均40日)で軌道工事への引き渡しを完了しました。もちろん、関係各管理者(道路、河川等)の支援および地元住民の忍耐強い協力、また気象条件にも恵まれた事、加えて緊急用として利用できる側道存在無しでは不可能な記録ではありますが、会員9社の方々の不眠不休の懸命な復旧活動によって達成された、まさに驚異的な記録と言えるでしょう。

山陽新幹線各所で落橋—— 大動脈が寸断

阪神・淡路大震災により、阪神間の鉄道網を形成する23路線のうち18路線が被災、18路線3,553kmの区間が

通行不能となりました。

我が国が世界に誇る新幹線も例外ではなく、特に新大阪～六甲トンネル間の16.25kmに被害が集中しました。これら大動脈の寸断により鉄道輸送機能は完全にマヒ状態となりました。



軌道工事引き渡し



重機械による復旧状況

■労務

	一日最大	合計
職員	264人	14,757人
作業員	3,737人	90,831人
運転手	319人	11,350人
保安要員	339人	14,839人
合計	4,658人	131,877人

■機械

	一日最大	合計
運搬車両	157台	3,470台
クレーン車	232台	6,930台
高所作業車	100台	1,995台
掘削機械	76台	2,309台
破砕機械	42台	467台
その他の機械	275台	3,607台
合計	882台	23,778台

■軌道工事引き渡しまでの日数

証日数	30	60	90	120	150
通常標準日数					
実施日数					
最大					
平均					
最短					

(会員9社による被災から軌道引き渡しまでのアンケート調査)

一方、軌道工事への引き渡しから4月8日山陽新幹線開通までには、運輸省等の厳しい基準をクリアしなければならず、支柱に鉄板を巻く補強工事等数々の難工事が待ち受けていました。そして、“より安全な新幹線の復活”が求められる中、一日も早い開通を望む国民の期待に応えるためにも、万全を期して復旧活動が続けられました。



床版落下



復旧状況



復旧完了

努力が実った！復活に向けて大動脈が始動

今回、未曾有の衝撃的大震災は、東西の交通を分断し、経済や国民生活に多大な影響を及ぼしました。しかしながら我が国の大動脈である新幹線には開業以来、旅客災害ゼロという安全神話があり、より健全て、より安全な施設として早急に復旧さ

せることは、建設業として国民の希望をつなぐ社会的使命でもありました。

復旧担当各位の献身的な勇気と努力によって無事開通を迎えた今、さらなる安全神話の継承、新幹線の完全復旧に向けて大動脈が再始動します。



試運転車